

‘染井吉野’に広がる異常なコブ症状に注意しましょう。

1. 異常なコブ症状について

皆さんがお花見を楽しんでいる‘染井吉野’の枝に下記の写真の様なコブ症状は発生していませんか。このコブ症状が数年前より日本各地の‘染井吉野’に蔓延してきています。現在、研究機関による調査・研究が進められていますが、原因が明らかになっておらず、植栽環境や近年の異常気象との関連も疑われています。症状としては枝の一部に生じた小さなコブが徐々に肥大して行きます。このコブが大きくなるとその先の枝が枯れてしまいます。また、枝の各所に同様のコブ症状が広がることから伝染性がある可能性が非常に高いと推測されます。現在、日本各地でこの症状により樹勢が衰退している‘染井吉野’を見かける機会が増加しています。伝染性が疑われるため、被害拡大を防ぐためにはコブ状になった部分を切り取るしか対策方法がありません。感染の拡大を防止するためには早期防除が有効なので、このような症状を発見した場合には管理する自治体や団体などに連絡して対策をとるよう呼びかけましょう。



2. コブ症状が発生している‘染井吉野’の処置方法

現在、この症状の原因が明らかになっていないためコブ症状が発生している枝を発見したら、出来るだけ早期に切除するしか有効な対策はありません。桜は春から秋にかけての成育期に剪定すると剪定した部分から腐朽しやすいため、落葉期間中(12月～2月)に剪定し、剪定した箇所は傷口を保護するため傷口保護剤を塗布します。また、切除した枝は伝染経路が不明なため現時点では焼却処分することが望まれます。‘染井吉野’は萌芽性が強いので、剪定後の管理を充実することにより樹形の再生や樹勢回復を図ることができます。方法としては、つぼ穴方式や打ち込み式肥料などによる施肥が有効です。